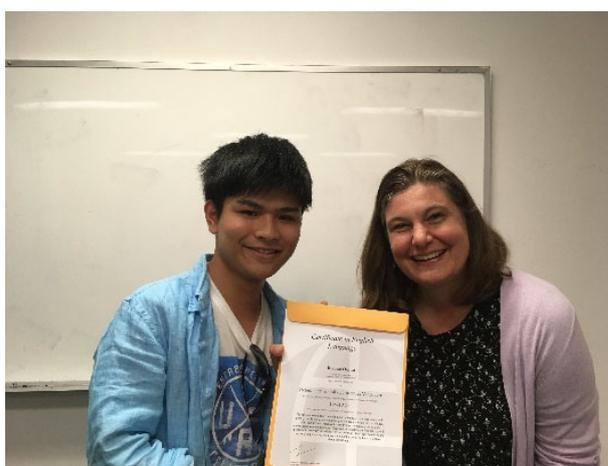


# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1 年次生 小川諒文

## 1、はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2019 年 8 月 18 日から 8 月 25 日の期間にかけて、カナダのバンクーバーでの医療英語レッスンそして医療施設見学のサマープログラム参加の報告をさせていただきたいと思います。



## 2、授業

Oxford International/Eurocentres Canada にて医療英語レッスンを受けてきました。はじめ、来た時、英語のみで授業を受けることが心配でしたが、先輩方の支えもあり、受けることができ、担当してくれた Gen 先生もとても愉快で楽しい方だったので、授業が楽しかったです。家からさほど遠いところではなかったので、とても通学には困らなかったです。また、他の教室には、沢山の国の人達がいて、意欲的に英語を学びに来ていて自分も感化されました。日本とカナダとの医療英語の違いや英語でよく日常的に使っている病気の名前も違うので、凄く新鮮でした。

## 3、医療施設見学

病院に行き、日本でいう病院ではなく、カナダでは国立の病院では、総合診療科で統一されて、緊急性の高い人から見ていくため、骨折などで、レントゲン撮影を取ることが難しいです。なので、多くの私立病院があり、そこでは費用はかかりますが、すぐに見てもらうことができます。手術室も見せてもらいましたが、日本の手術室と同じでとても衛生面には配慮されていました。しかし、驚いたのは、その病院に薬剤師がいなかったことです。処方箋を出されて薬局に行くみたいでした。また、薬局では、薬剤師が全ての責任を負っており、医療費請求もしないといけないため、患者ともめることもあり、薬剤師のほかに、テクニシャ

ンとアシスタントがいて、薬剤師のサポートをしていました。テクニシャンとアシスタントがほとんどの仕事をしてくれるため、薬剤師は最後の処方をするところだけでは ありませんが、間違っていないかやこの薬の副作用とかを話すという重要な仕事をしていました。時間がしっかりと決められていたため、自分の時間を持つことが出来ると言われました。病院薬剤師は、医師と同様に権限を持っており、対等な立場で物事を見ていると言われました。また、処方された薬は、ほとんどがカナダ政府がオンライン上で、個人情報として管理している。

#### 4、ホームステイと観光

留学するならホームステイ。僕のホームステイ先は、東南アジアのご家庭でした。そこのお母さんが、とても友好的で、積極的に僕達に話しかけてくれて、短い間でしたが、英語圏での生活に慣れ親しむきっかけを与えてくれました。とても新鮮でした。

観光は、ギヤスタウン、グランブリアアイランドなど様々なところに行き、英語ばかり話しているところでの買い物は、初めは大変でしたが、慣れてくると楽しくて、自分もこの人達は何を話しているのかを知りたいと思えるぐらいでした。また、カナダに行き、様々な体験をしたいと思います。

